

研究指導 博士前期課程

大学院では修士論文までの研究指導の進め方が最も重要であると考えている。研究指導教員の決定についてはおもに以下のようなプロセスを経ている。入学前指導を含めての一連の流れを以下紹介する。

- 1 入学試験時における入学志願者調書の「入学後の研究について」「希望する指導教員名（第一希望）（第二希望）」「研究計画」等を記載することになっているため、第一希望になっている指導教員は面接官となり、実際に受験者に研究の内容について確認等を行う。なお、受験者が武蔵野学院大学在学者でない場合には、未記入の場合もあり、この場合には研究計画により指導可能な教員が面接官として対応する。
- 2 入学前指導の一環として日本に滞在している入学許可者で春入学予定者には 2 月の研究発表会、秋入学予定には 7 月の研究発表会の案内を行っている。研究発表会に出席した入学予定者には入学後のイメージをより固めてもらい、希望する研究指導教員ともさらに研究内容を確認してもらおう機会となっている。
- 3 入学前指導の一環として合格者には入学手続きが完了し、入学許可書の発送後に、「研究計画書」（0 号様式）に再度研究計画を提出してもらい、研究内容の確認を行っている。また、受験時の面接において、研究内容が曖昧な場合においても同様としている。
- 4 入学時のオリエンテーション期間中に研究内容に変更がないかどうかを確認するため、希望する研究指導教員が面接を行う。研究内容に変更がある場合には、院生と相談の上、他の教員とも面接を行う。「研究計画書」（0 号様式）においても希望する研究指導教員が未記入の場合には、研究テーマや研究計画を指導できる教員が面接を行う。このような場合には教務部長及び研究科長が相談の上、面接者を指名する。
- 5 入学後の面接の結果により、研究科委員会において審議の上研究指導教員を決定する。

研究指導教員は修士論文の提出においては重要な役割を果たすため、院生が納得して指導を受けるように慎重を期して決定している。

研究指導教員の決定後は概ね以下のようなプロセスを経て、修士論文が提出ができるように指導を行っている。

（博士前期課程 1 年次）（春入学者）

- | | | |
|------|-----|--|
| 4 月～ | 5 月 | 研究テーマを決定。 |
| 6 月～ | 1 月 | 基礎文献の精読を通して研究計画書の立案指導。 |
| 6 月～ | 7 月 | 修士論文の学術的な意味について教示する。文献、資料の収集の指導、並びに文献の講読を行う。公開研究発表のための指導を行う。 |
| 7 月 | | 公開研究発表会 |

- 7月～10月 公開研究発表会の結果を受け、そこで示された問題点、課題について整理、検討。問題意識と研究の方向性を確認。研究の方法論、調査方法について検討する。文献の講読を行う一方、院生による研究報告の内容を検討し、問題意識と研究の方向性を確認し、研究の方法論、調査方法について指導する。
- 10月～3月 院生による研究報告の内容を検討し、研究テーマと内容の整合性、章構成、議論立て方等について指導し、修士論文執筆に向けた準備のための指導を行う。

(博士前期課程2年次) (春入学者)

- 4月～5月 研究計画書の精査。
- 4月～6月 院生による研究報告に基づき、研究テーマの確認、問題関心との関連性について検討する。論文の学術的な意味づけを教示し、オリジナリティを確認し、論旨、論理の展開等について指導する。適宜文献の講読を行う。研究発表会に向けた指導を行う。
- 6月 修士論文論題に関する確認と指導。
- 7月 公開研究発表会。
- 7月～12月 研究発表会での助言と指導を受けて、残された課題について検討する。論旨結論の検討を行い、知見を確認する。最終的な執筆の要領を含めた指導を行う。
- 12月上旬 修士論文の提出。口頭試問に向けた指導。
- 1月下旬 最終試験(口頭試問)。論文審査委員会は、修士論文の審査と共に、その論文内容及最終試験(口頭試問)の内容を検討し、判定結果を研究科委員会に報告する。
- 3月初旬 研究科委員会は、論文審査委員会の報告に基づき、博士課程(前期)修了の可否を判定する。
- 3月中旬 学位授与式にて学長より修士(国際コミュニケーション)を授与する。

※秋入学者の場合は、4月を10月、5月を11月、6月を12月、7月を1月、8月を2月、9月を3月、10月を4月、11月を5月、12月を6月、1月を7月、2月を8月、3月を9月と読み替えて指導。

本大学院は Semester 制度のため、毎年7月と2月に研究発表会が開催されており、平成23年度以降は博士後期課程の設置に伴い、博士後期課程の研究発表を博士前期課程の院生が聞くことによって大きな刺激を受ける良い機会となっている。また、『研究倫理&研究費の適正使用のためのハンドブック』『研究倫理&論文執筆の指針[大学院生向け]』は「学識を教授するために必要な能力を養うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供(プレFD)」は大学院HPに掲載しているので適宜活用してください。なお、プレFDは博士後期課程の大学院生を対象にしているが、博士前期課程でも実施致します。

各教員による研究指導についての紹介な内容についてはシラバスに掲載されているので、シラバスを参照のこと。